

取組5 憩いの空間の創出

取組の評価 3.1 概ね順調

< 取組5の基本方針 >

- 1 公園愛護活動の促進
- 2 特性を活かしたうるおい空間の整備
- 3 身近に利活用できる公園の整備
- 4 花と緑のまちづくりの推進

【取組の目的】 みんなが憩える親しみのある、地域の特性を活かした特色ある空間を創出します。

『取組』に係る社会の動向と本市の現状

1 社会の動向

- ◎ 地球温暖化や生態系のバランスの変化など地球規模で問題の深刻化が指摘されている中、国においても持続可能な社会に向けて、二酸化炭素の抑制を目指した低炭素都市づくりが推奨されており、二酸化炭素の吸収源である緑の保全と創出が強く求められている。
- ◎ 近年、都市づくりにおいて、拡大成長型都市づくりから集約された秩序ある都市づくりを進めるための政策転換が行われるとともに、自然に恵まれた地域の特性を生かした個性あるまちづくりの転換や地域コミュニティに支えられたまちづくりが求められている。
- ◎ 環境問題と景観形成の意識の高まりや災害に強いまちづくりの一層の推進、余暇活動における自然とのふれあいのニーズの高まりなど、緑が持つ環境保全、レクリエーション、防災、景観形成といった様々な機能を十分に発揮させていくことが期待されている。

2 本市の現状（主な取組）

- ◎ 平成19年度から23年度までを計画期間として、国の社会資本総合整備計画を活用した宇刈地区都市再生整備計画を策定し、市民が集い憩える地域特性を生かした特色ある空間の整備、恵まれた自然環境を生かした潤いのある生活環境づくりを目的に「宇刈里山公園」を整備した。
- ◎ 市内にある77箇所の都市公園のうち、開園から20年以上経過している公園が3割、10年以上経過している公園が5割程ある。公園施設の老朽化に伴い、その修繕が多く必要となってきており、平成23年度においては、10年以上経過している公園の便益施設、休養施設や給排水・電気施設等の状況を把握するための公園施設基礎調査を行った。
- ◎ 平成22年度に『袋井市緑の基本計画』を策定し、緑地の適正な保全及び緑化の推進に関する施策を総合的に実施するため、市民・企業・行政が一体となり、緑の保全・創出に取り組んでいる。

『取組指標』の分析と評価結果

1 取組指標の評価 【※ 実績値は、各年度末における最新数値】 評価結果の平均値(A) 2.5

<評価基準> 4:達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 3:達成率 ≥ 100%・前年比伸び率 < 0% 2:達成率 < 100%・前年比伸び率 ≥ 0% 1:達成率 < 100%・前年比伸び率 < 0%

番号	指標名	項目	現状値(計画)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
1	都市・農村・寄付公園、コミュニティ広場等の市民一人当たりの面積【㎡】	目標値	-	28.3	28.3	29.5	29.7	29.9	30.6
		実績値	26.8	27.5	28.5				
		達成率 伸び率	- -	97.1 2.6	100.7 3.6				
		評価	-	2	4				
2	公園愛護団体数【団体】	目標値	-	79	79	81	83	84	85
		実績値	77	76	75				
		達成率 伸び率	- -	96.2 ▲1.2	94.9 ▲1.3				
		評価	-	1	1				
3	花いっぱいコンクール参加件数【件】	目標値	-	56	56	57	58	59	60
		実績値	54	52	44				
		達成率 伸び率	- -	92.8 ▲3.7	78.5 ▲15.3				
		評価	-	1	1				
4	河川愛護(リバーフレンドシップ)の協定締結団体数【団体】	目標値	-	18	18	19	20	22	23
		実績値	17	17	18				
		達成率 伸び率	-	94.4 0.0	100.0 5.8				
		評価	-	2	4				

【指標に影響を与えた主な要因】

- ◎ 田原西・東公園の開設や豊沢の丘公園、上貴名せせらぎ公園等の整備完了により、所管替えされたため、一人当たりの公園面積が増加した。

2 指標で表すことが困難な成果

- ◎ 公園整備については、緑の基本計画に基づき、計画どおり進めているが、平成23年度の一人当たりの都市公園面積は、26.94㎡であり、市全域での公園整備は進んでいるが、身近な公園や緑地が不足している地区もある。
- ◎ 公園の維持管理については、市内のほとんどの公園を地元で管理しているが、今後、地区を特定しない公園や新規公園の愛護活動を推進していく必要がある。

『主要事業』に係る事業評価表の評価結果

1 主要事業の評価

※印は3か年推進計画事業

番号	主要事業名	H23事業費【千円】	事業評価表の評価結果			
			有効性	効率性	廃止の影響	
1	※(仮)春岡多目的広場整備事業	25,182	4	3	4	
2	※深見公園整備事業	2,720	4	4	4	
3	※三川地区公園整備事業	1,217	4	3	4	
4	※公園長寿命化計画策定事業	0	4	4	4	
5	公園維持管理事業	54,628	4	4	4	
6	袋井駅前広場維持管理事業	984	4	4	4	
7	愛野公園施設維持管理事業(指定管理)	15,393	4	4	4	
8	月見の里公園施設維持管理事業(指定管理)	5,793	4	4	4	
9	公園管理自治会事業	2,597	4	4	4	
10	愛野駅南北自由通路・駅前広場維持管理事業	19,897	4	4	4	
11	JR袋井駅・愛野駅前花壇管理委託事業	5,355	4	4	4	
12	生垣づくり補助事業	506	4	4	4	
13	花壇維持管理事業	192	4	4	4	
14	地域花壇維持管理事業(地域プランター等)	885	4	4	4	
15	花工場運営事業	6,077	4	4	4	
16	花咲くふくろい推進協議会運営事業	308	4	4	4	
17	袋井市花の会運営費補助事業	238	4	4	4	
18	街路樹管理委託事業	51,589	4	4	4	
19	街路樹愛護報償金事業	762	4	4	4	
20	公園愛護報償金事業	3,021	4	4	4	
21	公園芝生・樹木等管理委託事業	74,962	4	4	4	
22	市の木・花普及事業	998	4	4	2	
23	※市営墓地公園整備事業	16,387	4	4	4	
24	浅羽支所庁舎施設管理	30,035	4	4	4	
25	浅羽支所空調機器更新事業	429	4	4	4	
評価結果の平均値(B)		3.9	4.0	3.9	3.9	

『 取 組 』 の 有 効 性 ・ 必 要 性 ・ 緊 急 性 の 評 価 結 果

1 取組の有効性等の評価 評価結果の平均値 (C) 3.0

番号	評価項目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	コメント欄
1	有効性 4. 想定どおりの成果 3. 概ね想定どおりの成果 2. 一定の成果 1. 想定した成果なし	4	4					◎ 平成21年度から愛野公園、堀越公園、月見の里公園についても、他の施設と合わせて指定管理者制度を導入しているが、一体的に維持管理ができ有効的である。 ◎ 地域の公園や花壇などは、自治会等が維持管理を行うことで、地域との協働事業であり、有効である。
2	必要性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	4	4					◎ 公園は、地域交流や市民の安らぎの場として重要な役割を果たしていることから、機能を保つための効果的な維持管理が必要である。 ◎ 公園施設を安全で安心して利用するため、適切な管理をしていくためには、公園施設の長寿命化計画は必要である。
3	緊急性 4. 極めて高まっている 3. 高まっている 2. 一定程度高まっている 1. 高まっていない	3	1					◎ 都市公園においては、開園から10年以上が経過している公園が8割程あることから、市民が安全に安心して利用できるよう、早急な維持管理計画が必要である。 ◎ 平成23年11月に実施した「市民が感じる満足・不満足度調査」では、地域の公園において「不満」と「やや不満」と回答した人の割合は合わせて「38.3%」であり、調査項目中では、不満足度が上位であり、その対応を急ぐ必要がある。

『 取 組 』 の 総 合 評 価 と 今 後 の 展 開 方 向

1 総合評価 <評価基準> 4～3.6:順調 3.5～3:概ね順調 2.9～2:一部に改善を要する 1.9～1:全体的に改善を要する

取組の評価			コメント欄
3.1	概ね順調		◎ 遊具等公園施設の修繕費の増額や遊具の更新は、非常に厳しい状況になっている。さらに、公園数も増加し、施設の老朽化が目立つ中で、長寿命化計画を策定することにより、公園施設を適切に管理し、維持管理費のコスト削減を図っていく必要がある。 ◎ 公園の整備を行って行く中で、自治会等へ愛護活動の実施を積極的に依頼していくことが課題である。 ◎ 花工場で生産した花苗が、花の会や老人クラブ等の地域団体等を通じて、公民館、学校、道路沿いの花壇などに植えられ、美しいまちづくりに貢献している。
各評価結果の平均値			
取組指標の評価結果 (A)	主要事業の評価結果 (B)	有効性等の評価結果 (C)	
2.5	3.9	3.0	

2 取組の基本方針別 今後の展開方向

番号	取組の基本方針	H22	H23	H24	H25	H26	H27	今後の展開方向
1	公園愛護活動の促進	継続推進 →	継続推進 →					公園整備を行って行く中で、自治会等への愛護活動を実施を依頼していくとともに、市と地域が一体となって、「緑豊かな健康文化都市」を目指していく。
2	特性を活かしたうらおい空間の整備	継続推進 →	継続推進 →					市内にある160箇所ほどの公園を積極的にPRするなど、その公園の特徴や特色を伝え、市民の憩いの空間になるような取組が必要である。
3	身近に利活用できる公園の整備	拡充 ↗	拡充 ↗					公園は、地域住民の交流の場所であるとともに、災害時の一時的な避難地、防災活動の拠点として活用できる公園整備に努めていく。
4	花と緑のまちづくりの推進	継続推進 →	継続推進 →					「花いっぱいコンクール」への参加者の増加させるなど、新しい取り組みを検討していく。
5								
6								

【その他留意事項】

公園を地域の交流、市民の安らぎの場、憩いの空間として、地域や行政が一体となって、積極的な活用や保全等を推進していくことが必要である。